土木系学生会に九州大学土木科の楠田哲也君から投書があり，九州地区に文化的交流，親睦を兼ねた連絡機関をつくる機運がおきているという。当会としてはこれを機会に九州ブロックの土木系学生会が結成され，さらに関西，東北，北海道にも各ブロックが作られることを期待している。そして将来はこの学生欄を各ブロックが持ちまわりで編集するようにしたいと思う。

技術と人とを結ぶもの 土木工学を考える

上　　肇

汽車はゆっくりと下関の駅を離れていった。夜汽車の窓は，九州の夏だとてさすがにうすぼんやりと曇っていて，対岸にまで伸びている点々とした夜の灯の中に，さし向いの美しい少女の横顔を二重に写している。と思っている内にやがて少女の顔だけが浮き上ってきた。関門トンネルだ。海の底を走っているのだと思うと，ひやりと冷気が伝わってくるようだ。5年の労苦が5分の感慨の中に流れていく。あの人々はいまはどうしているのだろう。その人々の名も知らず，いや労苦すらも知られずにいまは時のもくずとなって汽車を走らせている。でもいまもなおトンネルにこめた建設者達の願いは，旅行く人々の身に馳せているにちがいない。

アメリカを旅する人は一度は金門橋を渡るだろう。ヨーロッパの空高く突き出した尖塔，古代帝国ローマの残した大遺跡群，美しき女神の館アテネのパルテノン，悠久不朽3000年の重みをたたえるピラミッド，えんえん万里をつづる万里の長城。だが歴史は，すばらしい創造物のみを残して，その建設者達を漂々と流れる時の岸辺に置き去ってきたのだ。今日もまたそしてこれからもなお，労苦を傾けては残していく偉大の担い手達の胸を去来するものは，はたしていかなる物であろうか。

このようにして土木工学は，これが学問という体系を持たなかったまでも，人類の黎明とともに始まり，またその歴史とともに歩んできた。これがためにかえって，一般の関心も低く，最近にいたっては，工学のある華やかな部面の影にかくれてしまうような悲哀をなめるにいたっている。ミクロの世界をのぞいては，原子や諸々の粒子を論じ，シュレディンガーの方程式をもてあそべば，何か学究の香高きことをしている気がするが，河辺にちらばる砂や砂利とセメントとでは，同じ粒子を論じても，近頃はやりのいい方をすれば，あまりぱっとしないということだろう。だがどれほどコンクリートが，わが土木工学において重要な位置を占め，また社会的にも生産的にもこれが進歩は大きな影響をおよぼすものであろうとも，これが土木工学のすべてではないのである。コンクリート工学はわが土木工学のわずかに一要素を成しているに過ぎないのである。裏を返していえば，正しくこのことが土木工学の特徴となっているのである。すなわちとかく近来の学問が分化を重ねて，ごく狭小な世界に局限されているのに対して，ルネッサンスの偉大な天才レオナルド・ダヴィンチの目指したごとく，土木工学者は自然科学はもちろんのこと，社会科学から芸術に到るまでの広い素養を要求されているのである。というのは土木はそもそも人間の学なのであり，人間に奉仕すべき学問だからである。人間がその中で生活し移動を楽しむ空間を，国土を建設し，それによって文明基盤を維持していく産業基盤を築き上げていくことこそ土木工学の使命だからである。

したがって常に超人でもなくまた自然科学の素晴らしき成果に酔いしれるものでもなく，やはり一個の人間なのだという意識，この意識をこそ土木工学者は要求される。

よく文学に描かれる自然科学者——彼等は哀れにも狭小な世界に閉じこもっている。美しい少女に心を動かすこともできず（実は彼の内面をとりつくろう偽瞞なのかもしれない）酔いしれるような甘い恋の味，人生の喜怒哀楽も他人事として，俗世界（と思っている）を軽蔑し，浄化された世界のごとく自己の狭小な世界に閉じこもろうとする。

しかし少なくとも土木工学者は違っている。修道僧ではなく一個の人間として，進んで人間の中に入っていって生活しようとするのだ。なぜなら工学は，いやましてや土木は究極においては人間生活を豊かにするものでなければならず，それゆえにまた人間たる自覚なくしては，非人間的な物をも建設する危険を内在しているからである。

だがしかしそれでもなお，僕達は自然科学者としての態度を失なわない。建設においてよくその投資効果を探査する。投資は単なる投資にとどまらない。投資によってある効果が生みだされる。その効果に刺激されてさらに開発効果を生みだす。この開発効果によってさらにまた新しい効果が生みだされていく。こうしてなされた投資はその効果を等比級数的に増大してある限界値にまで高めるのである。こうした中にもやはり自然科学者的考察がつらぬかれているのだ。要するに土木工学者はコンクリートや河川工学をテクニックとして人間学にアプローチするものなのである。

今日もまた満員の国電の中，扉のガラス窓に押しつけられながらも，ふと見上ると，高速道路がしだいにせりあがっていって美しい孤を描いている。やや下方より射す朝の陽光を浴びて描く美しい孤に，ちらりとヴィナスのおなかを伝って描くあの曲線が思い浮かんだのは，この僕がエロイッシュな人間だからであろうか。

（東京大学土木工学科）

野球大会について

去る4月28日，親善野球大会が日大が幹事校となって羽木公園で催され，参加7大学（日大・早大・中大・東大・法大・武工大・東海大）114名が覇を競い，全員，そろいのユニホームに身を固めた。早大優勝，二位日大，三位中大，四位東大の順だった。当会のPRともなり，各校間の親睦も深められたようだ。次回は東海大によるPSコンクリートについて映画と講演の会が5月27日に催され，6月には法大による電子計算機をテーマにした会が催される予定になっている。（5月20日現在）

正　誤　表

巻号	欄	ページ	行	誤	正
49—6	読者の窓	70	右下より 14	できませんでした	できました